

天理教 江南支部だより

発行先 江南支部
発行日 立教187年12月1日
発行責任者 福西 努
発行住所 甲賀町上野461番地9

12月号 N0293



立教187年 献米団参並びに親里の集い開催

11月26日、本部月次祭に併せて教区主催の立教百八十七年献米団参並びに親里の集いが開催された。

早朝より炊事本部に各支部より献米を積んだトラックが到着、災救隊を中心とするひのきしん者の手によって積み下ろされた。本年は、玄米八千二百キログラム、白米五百四十四キログラム、現金十二万九千円が寄せられた。

午後からは五講堂を会場に親里の集いが開催された。本年は、天理大学ラグビー部監督の小松節夫監督を講師に招き、若者の人材育成をテーマに長年にわたって選手を育成し、天理ラグビーを日本一に導かれた体験をお話しいただいた。



勇み心を頂いて
年祭活動の歩みを
一挙一歩に進めよう！

朝の信仰読本 中山慶純著

にをいがけに大切なもの

数年前、ある知人が「布教の家」に入寮しました。

全国に十六カ所ある布教の家では、寮生たちが寢食を共にしながら、一年間、戸別訪問や路傍講演など布教活動に専念します。

未信仰の人たちになをいがけをし、信仰していただくことは、並大抵なことではありません。しかし彼は、別席者を毎月のようにおぢばに連れ帰り、さらには修養科生もご守護いただいたのです。私は思わず「あなたになをいがけには、何かコツがあるのですか？」と尋ねました。

すると、彼は「一番気をつけていることは、信仰を無理やり押しつけて、『何が何でも別席にお連れするんだ!』と思わないことです」と教えてくれました。続けて「まずは、悩みや不安にひたすら耳を傾けます。身上や事情を抱えて苦しんでいる人は、心にとげが刺さっているような状態だと思おうので

す。心の痛みが少しでも和らぐよう、一本でも多くとげを取り除いて、笑顔になつていただきたい。そのことだけを考えて、にをいがけ・おたすけに歩いていきます」と、にこやかに話してくれました。

たとえば、手にとげが刺さったとき、放つておいたのに、いつの抜けていた、という経験はありませんか。これは皮膚の新陳代謝により、外へ外へと押し上げる力が働いて、自然と表面に出てくるからなのだそうです。

人さまのおたすけも同じです。身上や事情をお見せいただく原因の一つは、神様の思召に沿わない心づかいにあります。だからといって、その急所をいきなり指摘するのは、とげをぐいぐい押し、心をさらに痛めつけるようなものです。

人によつては、荒療治で心がパツと切り替わる場合もあるでしょう。しかし、未信仰の人へのにをいがけ・おたすけでは、自然にとげが抜けていくような優しい働きかけが何より大切なのだと、彼の話聞いて、あらためて思

いました。

にをいがけに大切なもう一つのもの、それはたんのうの心です。戸別訪問に回つても、すげなく断られて、話を聞いてもらえないことがほとんどだと思えます。また、路傍講演で声を張り上げて、足を止めて聞いてくれる人は少ないでしょう。心ない言葉を浴びせられ、落ち込むことかもしれません。

でも、そんなときこそ、たんのうの心を治めて、喜んで通らせていただきたいものです。笑われ、そしられるたびに、「また一つ、私の心はたすかつた」と思えば、勇んで歩くこともできるはず。そうやって通るなかで、「神様のお話を聞きたい」「おさづけを取り次いでほしい」と言つてく

ださる人が現れたら、喜びは何倍にも膨らみます。

人さまの目や耳に「天理王命」の神名が一度でも入れば、それだけで、その方のたすかりにつながる。私はそう信じています。



みんなの教理勉強

だめの教えって素晴らしい

飯田照明

だめ（究極）の教えの何と ありがたいことか！

はじめて、明るい希望にみちた 未来の歴史を明かされた

この世の終わりと、最後の審判（裁き）を言いだしたのは、紀元前六世紀に成立したペルシャ帝国の国教であったゾロアスター教である。

ゾロアスター教の世の終りと審判の思想が、ユダヤ教に入り、キリスト教、イスラームに受けつがれている。ここ二千年間に、数えきれないくらいの多くの、終末の予言が出された。最近ではノストラダムスの予言で、この世界は一九九九年七月に恐怖の大王が天から降ってきて大破局が地球を襲い、世は滅ぶと言った。大ウソであった。オ

ウム真理教の麻原もそれを利用して、一九九九年二月に終末が来ると言って、多くの信者を犯罪人にした。

仏教の一部でも、釈迦が教えていない末法（釈迦の教えは実行されず、救いもな世の末）思想をもち出している。釈迦がそんな教えを説かれるはずはない。自分が悟りを開いた真理―四聖諦八正道などは永久不変であり、行末長く広めよと教えられているはずである。某学会は、釈迦は末法では排仏（オシヤカ）であり、自宗の開祖こそ末法の本仏だと言って他の仏教各派から総スカンをくつっている。

みなウソであった。ニセの予言にたぶらかされて、悲惨な人生を送った人は数えきれない。だます方も悪いが、だまされる方も良くない。

この世界と人間を創り、守り育んでいる神が、この人間世界をとつぜん滅ぼすはずがないではないか。何億年と手塩にかけて育ててきた人間を悲惨な目に合わせ、一部の人間だけを救い、他の多くを地獄にたたきこんで苦しめ

る神など実在しない。そんなことをするのがいたら、それこそセム系宗教の言う悪魔・サタンである。

親神さまは、人間が心の成人をとげるにしたがい、世界はしだいに夢と希望にみちた、陽気ぐらしの世界へと歩みつづける。人間の未来は、こうして未広がり（すえひろ）に良くなっていくという明るく希望にみちた未来をお約束になった。人間の努力とそれに対して親神さまがくださる守護とによって、この世界は一步一步よりよい世界へと立ち替わり、世直しが行われるのである。明るい希望に満ちた未来を創り上げていく生き方を教えられた。お道の教えこそ人類の本当の親なる神の教えである何よりの証しである。



第3回 ようぼく一斉活動日を開催

吉岡講師のお話し



11月4日（祭日）午前10時より甲龍分教会を会場に第三回目のようぼく一斉活動日が開催された。
講師に吉岡孝之先生（近愛分教会長）を迎え、「おさづけ」をテーマに体験談を交えての感動的なお話しや、祈りについてのDVD視聴、また実際にたすけられた方の感話などが行なわれ、大変充実した活動日となった。

閉講あいさつ



滋賀教区災救隊訓練を実施



教区災救隊は、10月28日29日の両日にか
け朽木のグリーンパーク想い出の森を会場
に教区訓練を行った。支部からは3名が参
加し、下草刈り、枝打ち、伐採を行なった。